

万象は偶然でなく必然

人との縁はもちろん、仕事との出会いも偶然ではなく必然のこと。「何か学ぶことがある」「必要とされているからここにいる」と考え、感謝の心を忘れずに取り組んでいます。

仕事は可視化する

アイデアが浮かべば企画書に落とし込み、それを具体化する際も数字なども含め可視化します。こうすることでぶれがなく、周りへの指示もしやすくなり、よりよいアウトプットにつながっていきます。

第5回

社会医療法人石川記念会H-I-T-O病院(愛媛県四国中央市)

田渕典子

Noriko Tabuchi

地域住民を支え続ける病院として
多職種協働・連携を意識した
組織づくりにまい進



看

看護師を志したきっかけは、「人に優しく接し、奉仕の精神

が求められる看護師が向いている」という、中学時代の先生からのアドバイスです。看護学校では全人的なものの方、奉仕の心を学びました。また、患者さんやご家族

に一生懸命かかわることで心を開いてくださり、「ありがとう」と感謝の言葉をいただける、素晴らしい職業だと感じました。これらが今の自分の根底となっています。

働きながら勉強したいという思いがあり、当時設立して間もない

愛媛大学医学部附属病院に入職しました。なぜか配属されたのは外科や小児科、血液内科、循環器内科など、希望していなかった病棟ばかり。大変でしたが、医師や患者さんと相談しながら教科書に

載っていないケアを考えていくと

いう貴重な学びもありました。

患者サービスの視点から 地域、行政との一体化めざす

2004年に副看護部長、07年には看護部長兼副院長を拝命しました。当時の院長からは「看護の時代が訪れる。経営視点を持ちながら医師や多職種をまとめられるのは看護師だ」と言われ、お受けしました。

副看護部長時代に病院機能評価の受審にかかわった時には、多職種協働ができる組織づくりの好機ととらえました。病院全体のマネジメントを担う使命感から各部署とコンタクトをとること、組織と



若手スタッフとも積極的にかわり人材育成、医療の質向上を図る

しての看護部を認めてもらうためにひるまず、ぶれない強さをもつことを考えて取り組んだら、「サッチャーみたいだ」と言われました（笑）。副院長として仕事をすることで、サッチャーの部分は今も持ち合わせていると思います。

看護部長との兼任時は、看護部長としては7対1入院基本料の看護体制に向けた取り組みや看護師の育成と、その成果をサービスに転換したうえで可視化しました。副院長の立場では、病院全体として患者さんへのサービスの視点が必要。地域と行政、病院の三者一体を意識するようになりました。災害拠点病院だったこともあり、住民を対象とした災害ボランティア事業を立ち上げましたが、災害医療訓練への参加を含めた研修を企画し、災害時に初期行動がとれるようなスキルを身につけてもらうことで住民の防災意識が上がりました。

また、多職種や他医療機関と協力して切れ目のない医療を提供するため、総合診療サポートセンターの開設にも携わりました。この活

動を大学内で医師会会員向けに発表する機会があり、そこで知り合ったのがHITO病院の石川賀代理事長・病院長です。たびたび話すなかで、理事長と私の考えは、同じベクトルにあると感じました。縁あって昨年4月、HITO病院の副院長に就任しました。

私が愛媛大学医学部附属病院で副院長になった時点で任期は1期5年、最大2期までとしたので切りのよいタイミングでした。HITO病院は早くから地域連携を推進していましたが、これまでの経験を活かし、大学病院より地域に近い存在である当院で新たなキャリアを積みみたいと考えました。

現在、看護・地域包括ケア推進事業を担当しています。理事長の話を受けて、その内容について質を高めること、新たな構想を話される時はタイムリーに企画、具体案として落とし込むのが大事です。理事長の早いテンポについていくのは自分への挑戦です。院内で分散している情報や資源をまとめ、組織力を高めるのが私の役割だと

思っています。

取り組みの一例を挙げると、当院を含む3法人で形成される石川ヘルスケアグループで担当者会議などを開き、法人間をつなげたり、退院支援・調整の質をより上げるために多職種の若手スタッフを集めたチーム医療活性化会議を立ち上げたりしました。地域の開業医との連携強化もその1つ。自院のみが潤うのではなく、地域住民を支え続ける病院経営を実現するため、これからも尽力したいです。



たふち・のりこ ● 聖カタリナ女子高等学校衛生看護科、聖カタリナ女子高等学校衛生看護専攻科、愛媛大学法文学部総合政策学科卒業。同大学医学部附属病院を経て、1990年、同院副看護部長。94年、同看護部長。2004年、同副看護部長。07年、同副病院長兼看護部長。11年、同看護部長を経て2017年より社会医療法人石川記念会HITO病院副病院長。日本看護協会認定看護管理者。